

はじめに

石原孝二

本ブックレットは東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属「共生のための国際哲学研究センター」(UTCP) 上廣共生哲学寄附研究部門 L2プロジェクト「共生のための障害の哲学」の活動の一環として編集・出版されるものである。

2012年6月から始まった「共生のための障害の哲学」プロジェクトは、障害の哲学を展開することを目的としている。

「障害」に関する哲学的な探究のアプローチとしては、おそらく、次の三つを考えることができるだろう。第一に、哲学は、その適用範囲を広げるために、障害や障害者に興味を持つということがあり得る。このアプローチにおいて、障害と障害者は哲学的な探究の材料やインスピレーションを与えるものとして扱われることになる。第二のアプローチとして、障害領域への特定の哲学的な理論や哲学的な思索の適用を試みるものがある。そして第三のアプローチとして、障害そのものに関心を持ち、障害とは何かを明らかにするための一つのツールとして、哲学的探究を用いるというものがあり得るだろう。本プロジェクトでは、第三のアプローチを、つまり、哲学のための「障害の哲学」ではなく、障害を考えるためのものとしての「障害の哲学」を展開していくことを目指している。

本ブックレットのサブタイトル「身体・語り・共同性をめぐって」は、原稿依頼時に執筆者に提示したのではなく、集まってきた原稿を見ながら編者が考えたタイトルである。したがって、各論文・報告については、各執筆者がそれぞれのテーマについて自由に執筆したものとして読んでいただければと思う。本ブックレットが「障害の哲学」および「共生」について何らかの示唆を与えることができるものとなっていることを願っている。

本ブックレットの執筆者は「共生のための障害の哲学」プロジェクトの2012年度のメンバー（稲原、飯島、岩川、石原）と、本プロジェクトの研究会や国際会議で発表していただいた方々である。それ以外では、本ブックレットのテーマに関連する論文としてフックス教授らの論文の翻訳「エナクティブな間主観性—参加的意味創造と相互編入」も収録した。本論文に関しては、田中章吾氏に翻訳原稿をご提供いただいただけでなく、翻訳権に関する交渉に関してもご尽力いた

いた。また、韓国の金大煥氏、金洛佑氏原稿の翻訳と著者への確認作業等に関しては、文景楠氏にご尽力いただいた。Michael Gillan Peckitt 氏には、英文アブストラクトの校閲でご協力いただき、内藤久義氏には、本ブックレットの原稿整理・印刷作業に関してお世話になった。本ブックレットの作成にかかわっていただいたすべての方々とプロジェクトをご支援いただいた上廣倫理財団にお礼申し上げます。